

# 「アルミから水素」実用化へ

## 高岡の企業 トヨタと技術確立

高岡市のベンチャー企業「アルハイテック」は、トヨタ自動車(愛知県豊田市)と協力して、アルミニウムから水素を取り出し、安価に提供できる技術の実証実験を行った結果、装置への円滑なアルミ投入技術などを確立したと発表した。家庭用大型冷蔵庫ほどの大きさの装置を10月頃から販売する計画だ。

実証実験は、アルハイテックが開発した反応液にアルミの切粉(くず)を浸すと、水素と、難燃材の水酸化アルミニウムが生成される装置の実用化を目指して実施した。同装置は約9坪・坪のアルミくずから、約

1坪・坪の水素と約26坪・坪の水酸化アルミが生成される。昨年2月、今年2月に行った共同研究と実証実験を通じて、①装置への円滑なアルミ投入技術②水素の連

続供給の基礎技術③水酸化アルミを主成分とする副産物の分離・回収技術などを確立した。その結果、アルミの投入から水素などの生成や取り出しまでにかかる時間が4分の1に短縮されたという。

アルハイテックには、既に300件の問い合わせがあり、一部で装置導入に向けた交渉も進めている。水木伸明社長は「装置が普及すれば、水酸化アルミを輸入する必要がなくなるかもしれない」と期待している。